

「カンボジア 栄養強化米を用いた職場における栄養改善」セミナー報告

2018 年 3 月 12 日
ILSI Japan 高梨久美子

日時：2018 年 2 月 7 日(水) 8:30～13:25

場所：HIMAWARI HOTEL, 313 Sisowath Quay, Phnom Penh, Cambodia

目的：1) 職場における栄養改善プログラムの事例紹介
2) 栄養強化米を用いた栄養改善事業の紹介

主催：官民連携栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)
特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構(ILSI Japan)

共催：National Sub-Committee for Food Fortification (NSCFF)
Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC)
Reproductive and Child Health Alliance (RACHA)

参加者：カンボジア政府、カンボジア企業、日系企業、国連機関及び NGO から約 67 名の参加を得た。

議題：

1) ウエルカム スピーチ (Ms. Hou Samith (女性省 兼 RACHA 理事))

- カンボジアにおいて栄養不良の課題は、労働力・生産性を欠き経済成長を妨げる一因であるため、本セミナー開催は、カンボジアの栄養政策にも一致する重要なイベントである。
- カンボジアでは米が主食であるため、主食である米への栄養強化により栄養改善を実施するという戦略は、非常に効果的である。
- 各人が持つ専門性や知見を活かして、カンボジア女性、特に工場で働く女性従業員の栄養改善に全力で取り組んで欲しいと、セミナー出席者に呼びかけた。

2) 開会の挨拶 (Mr. Pan Bunthoeurn (計画省))

- 本セミナーにより、女性従業員の栄養状態に関する工場経営者の理解が深まり、国内外の職場における栄養改善事例から学び、カンボジア社会の発展のため栄養強化米導入による栄養改善が実施されることを期待する。
- これまでの鉄強化魚醬・醤油プロジェクトをはじめとする食品への栄養強化策実

施、また、Inter-Ministerial Technical Committee of the Ministry of Planning の協力により本セミナーが開催できたことに対する感謝の気持ちが述べられた。

- 様々なパートナーが協力して女性従業員の栄養改善を進めていくこと、また持続的なプロジェクトの実施を呼びかけた。

3) NJPPP の紹介 (NJPPP)

- NJPPP は、JICA と食品産業センターを事務局として 2016 に発足。
- 日本の民間企業の技術を活かして、途上国の人々の栄養改善を推進するための官民連携の枠組み。栄養改善ビジネスの国際展開支援事業を展開している。
- NJPPP では、2013 年(ロンドンオリンピックの次の年)に英国政府が主導して作成した Global Nutrition For Growth Compact において、日本政府が約束した栄養改善に向けた官民連携を実現させるための具体的な活動を展開。
- 東京オリンピックパラリンピックが開催される 2020 年に、栄養改善における日本の取り組みについて世界に発信することを目指している。

4) パナソニックインドネシアにおける栄養改善事業 (パナソニック インドネシア)

- 会社概要の説明。
- 労働衛生環境の改善による生産性向上を目指した活動では、職場環境の改善、食堂の改善、健康教育の実施、運動習慣づけ、検診の推進を行っている。例えば、バーコードを使ったバランスのとれた食事、減塩食等の提供、食堂の衛生管理等。
- 一日も休まずに出勤した従業員を表彰する等、欠勤率の減少を目指すイベントを開催。
- 「物作りの前に人を作る」という管理職のコミットメントの元、福利厚生サービスを充実させ、従業員の健康及び満足度を高め、生産性の向上を目指している。

5) バングラデシュ 職場における栄養改善 (NJPPP)

- BSR(国際 NGO)が GAIN(Global Alliance for Improved Nutrition (国際 NGO))等と共同でバングラデシュにおいて実施した HERproject の紹介。
- 現状分析により、①縫製業に従事する女性従業員は、栄養に関して間違った認識をしている事、②暖かい昼食を提供している縫製工場は約 30%のみである事等が明らかになった。
- 女性従業員の栄養改善を目指した HERhealth program の効果を介入試験により検証。本プログラムでは、行動変容のため、①衛生、②栄養バランスのとれた食事、③母子の健康・家族計画、④エイズ予防、⑤乳幼児食の与え方、⑥病気、に関する研修を実施。特に、栄養活動については、鉄・葉酸サプリメントの配布、栄養強化食品(米、油、塩)を給食に使用、既存メニューの改善を実施。これらの活動を通し

て、良い結果が得られつつある。

- 本プログラム実施における難しさとして、①職場における栄養教育時間の確保、②栄養活動を実施する事への管理職の理解、③女性従業員の理解、④工場の生産性に関わる事項は共有しにくい等が挙げられる。

6) NJPPP の紹介とインドネシアにおける職場食の栄養改善 (NJPPP)

- NJPPP の具体的なプロジェクトの第一弾として、インドネシアにおける職場食の栄養改善事業実施のための準備をしている。
- インドネシアの女性従業員の栄養課題として、微量栄養素欠乏を含む低栄養と、エネルギー・脂質の摂取過多に起因する過剰栄養、すなわち、栄養不良の二重負荷という課題が存在する。
- 職場の食堂で栄養バランスのとれた食事を提供するべく、2016年11月にインドネシアにて企業・工場等の現地調査を実施。
- 栄養状態が改善された結果、従業員の欠勤率や作業効率の向上を目指す。

7) カンボジアにおける栄養強化米を使用した健康推進戦略：現地調査報告 (NJPPP)

- カンボジアにおいて主食である米に栄養素を強化し職場食に導入、同時に栄養教育を実施することで、妊娠適齢期女性の栄養改善を目指す。その結果、欠勤率の低下、工場の生産性向上が期待できる。
- 2017年9月の現地調査では、カンボジア政府機関、工場経営者、国際機関、NGOs、学術機関との意見交換を通じ、本事業の実施可能性と連携可能性を検討した。

8) 栄養強化米を用いた栄養改善事業の紹介 (ILSI Japan)

- ILSI Japan は、これまで中国、ベトナム、カンボジア、フィリピン、インドにおいて魚醤・醤油及び米への栄養強化事業を実施。
- 米への栄養強化技術については、フィリピンの国立食品栄養研究所と共に確立。
- カンボジア女性の栄養状態及び食習慣について：亜鉛、葉酸、ビタミン B1 不足等が課題。米を多く消費するという食習慣からは、食品のバラエティー(副菜)が少ないことが伺え、微量栄養素欠乏に陥り易い。全体的に、食事へのプライオリティーが低い。工場で働く女性は、昼食時間が限られているため、(工場が昼食を提供しない場合は)手軽に購入できる菓子類を食事の代わりに食べることが多い。
- 職場食に栄養強化米を導入することによるカンボジア女性従業員の栄養改善事業計画概要の説明：①ビジネスモデル、②プレミックスマはフィリピンで製造しカンボジアに輸入、③栄養強化米の導入と並行して栄養教育を実施、④女性従業員の栄養状態の向上を期待。

9) **カンボジアにおける食品への栄養強化に関する取り組み**（計画省 国家栄養強化食品委員会）

- 国家栄養強化食品委員会は、カンボジア政府の各省庁、国連機関、NGOs、民間企業等の連携により運営されている。
- 現在、進めている栄養強化食品プログラムは、①ヨード添加塩、②鉄強化魚醬・醤油、③ビタミン B1 強化魚醬(試験)、④学校給食における栄養強化米提供である。

10) **カンボジア縫製製造業協会による社会的支援**（GMAC）

- GMAC は 1996 年に設立され、現在 500 社以上の縫製業者が会員となっている。
- 500 社以上の縫製業で働く 60 万人以上の従業員のリプロダクティブヘルス、安全等の社会的支援に力を入れている。2003 年から社会的支援 SAFE を実施。SAFE プログラムでは、カンボジアの規則や政策に従い、健康、安全、セクシャルハラスメント等の課題解決に取り組んでいる。
- 会員縫製業者のメリットとして、SAFE 等の取り組みによる健康な労働者、安定した生産性、国際競争力の確保等が挙げられる。

11) **ライフスキルの向上をベースとした栄養研修後の女性従業員の出勤率の改善**（Kamonohashi Project / SUSU）

- シエムリアップ郊外の貧しい農村地域の工房にて、約 70 名の女性従業員が民芸品等を制作。
- 女性従業員の多くは、貧困家庭で育った背景から、成功体験が少ない、物事をすぐに諦めてしまう、社会性があまりない等の課題があった。
- 課題解決能力、自信、仕事に取り組む姿勢などから構成される 6 つのライフスキルを教える。
- 食堂にて栄養バランスの良い副菜(主食のご飯は自宅から持参)を提供。毎日、昼食時に、3 分間の栄養教育を実施。
- 栄養教育のアプローチ方法は、毎日、簡単な内容を繰り返し伝え、楽しい栄養教育セッションである事。従業員の中から栄養係を選出し、同年代の従業員同士が教えあえる仕組みを活用。職場の特性を活用した教育を実施している。

12) **オープン ディスカッション**

- GMAC : 具体的なプロジェクトの内容について、詰める必要がある。
- ILSI Japan : プロジェクトを実施するためには、カンボジアにて協力体制を確立し、カンボジアの工場のニーズや日本側のニーズを協議した上で、プロジェクト計画を提案書等に記載して行く必要がある。導入工場の数について、最初から多数の工場を実施する必要はなく、数か所を進め、結果を出していく事が重要。その後、

他の工場に広めていく。

- ADRA(NGO)：カンボジアには、様々な栄養強化食品があり、強化栄養素の摂取過剰等が懸念される。
- NSCFF：NSCFFが栄養強化食品に関するコーディネートをしている。
- 民間企業の自己紹介：4社の代表が会社概要、本セミナーの感想について述べた。どの企業も栄養強化米について興味を示し、導入に意欲を見せていた。
- Mr. Sok Silo（農業・農村開発評議会：Council for Agricultural and Rural Development (CARD)）：中国の栄養強化米プログラムを視察した時の様子を共有。農業・農村開発評議会は、計画省と連携し、カンボジアにおける栄養強化米プログラムの実施を支援する旨を表明した。
- Mr. Theng Pagnathun（計画省）：計画省として栄養強化米の職場導入を前端的に支援する。

13) 閉会の挨拶（Mr. Theng Pagnathun（計画省））

- カンボジアにおける栄養強化米の導入による女性従業員の栄養改善プロジェクトを支援して行きたいと前向きなコメントが得られた。

14) その他

カンボジア国営テレビ局(KTV)により、セミナーの様子が放映された。

<https://www.youtube.com/watch?v=8NbiVhB34E&feature=youtu.be>

今後のアクション：

- GMAC との詳細打合せを行う。
- セミナーに参加した企業及び GMAC から新たに紹介される企業を個別に訪問し、特に、栄養強化米のコスト負担及び栄養教育時間の確保等に関わる工場の福利厚生等の仕組み等について協議し、プロジェクトの導入に関わる詳細な打合せを行う。

以上

【写真】



